

# まき歯科新聞

第48号

〈毎月第3火曜日〉

※今月は都合により第4火曜日の掲載とさせていただきます。

## 『した』にも色々あります☆

今年の梅雨はとにかくよく降りましたね！と思ったら、突然の梅雨明けとともに夏の空には入道雲。子ども達にとっては、プールはあるし、夜は遅くまで明るいし、朝からアイスは美味ししと夏万歳の日々なのよです☆

プールとなると、恒例なのが『朝の検温』。体温をプールカードに記録しないとプールに入れないため、毎朝姉から妹たちへ体温計が飛び交い、『さくらんぼ〜！(36.5℃)』誰が〜？！(言葉も飛び交う朝の風景です。)

現在は腋窩(えきか)で測るデジタル体温計が、ご家庭でも主流だと思いますが、私たち昭和世代以前には水銀計も見慣れたもの。よく漫画などでは登場人物が病気になる時、水銀計を口にくわえる姿がみられたものです。□にくわえるといっても、単にくわえているだけではなく、有効に計測できるのは、舌の下。

一般的に腋窩よりも外気温などの影響を受けにくく、より体内の深部温度に近いので、この場所が選ばれます。ならばと思つて、ふと鏡で舌の下をみてみると、びっくりする位、多くの血管が透けてみえたり、心配になる位ひだや突起があるものです。(時折、まじまじと見て心配になって来院される方も)普段は舌にかくれた場所ですが、重要な役割が備わっています。多くの血管が大きな役割を果たす

のは、例えば狭心症発作の治療薬であるニトグリセリン。発作時には舌の下に投与されます。これは、通常□から水などで飲みこんで胃や腸での消化を経て効果を發揮するのと違い、舌の下にある静脈から直接吸収され、速やかに循環血液中に移行するので、効果が迅速に發揮されます。

舌の下の真ん中に、"ーン"と張って見えるのは舌小帯と呼ばれるもの。誰にでもあるものですが、これが短かったりすると発音や飲み込みに大きな影響を与えます。舌を前にだしてみてもハート形にくびれるようなら、中等度の小帯の短縮が疑われます。

また舌の下にある突起には舌下腺など唾液を作る器官の、開口部が含まれています。通常は唾液腺で作られた唾液が、開口部を通ってお口の中へていくのですが、何らかの原因でこの通り道の管が詰まったり、そこから炎症を呈することもあります。普段、意識することは少ない舌の下ですが、大切な機能を備えた場所なのです。

状態がよいと意識することが少ないのは、歯も同じかも。今年の暑〜い夏を乗り切るには、やはり美味しく食事を食べること☆暑さ敵しくなる前に、ぜひ夏バテしないお口を作りましょうね！



健口から健康のお手伝い

# まき歯科

院長 副島真紀

診療時間

月～金曜 10:00～12:30/14:00～20:00  
土・祝日 10:00～14:00

診療科目

歯科・小児歯科・口腔外科・矯正歯科  
※訪問診療も行っております。

島原市上新丁 1-4158-1 あんしんハウス島原 1F TEL.64-5077